

元気の源

千葉県印旛郡栄町立竜角寺台小学校

六年 山岡 玲大

ぼくは冬になると、毎朝みかんを食べます。祖母が送ってくれるみかんは、形はふぞろいですが、甘くてみずみずしくて本当においしいです。家族みんなが大好きなみかんについて、調べてみました。

ぼくが興味を持ったのは、みかん農家です。みかん作りは、一年じゅう様々な作業があり、たくさんの手間がかかります。おいしいみかんを作るためにそんな大変な仕事をしている農家ですが、調べてみるととてもきびしい状況だということが分かりました。

みかんは一九七〇年代まで、給料が上がるのと同時に需要量が増えていき、みかん畑も増えました。その結果、生産量も七三年にピークに達しました。しかし、生産が増え過ぎたため、廃園などの調整が行われて、九〇年にはピークの時の半分以下になりました。さらに、アメリカからの圧力で九一年以降オレンジの輸入が自由化になり、関税率が減らされて、みかんの生産量はいつきに下がりました。

また、国内ではみかん果汁の消費量は伸びてきていますが、果実は減少していて、特に若い人達の果実離れが多くなっているようです。スーパーでも、簡単に果物や野菜がとれるジュースがたくさん売っているなあと思いました。

このような状況で、農家も大きく変わっていききました。農家は作業に大変な時間と手間がかかるのに、収入は多くないそうです。戦後まもなくはもうかる農業でしたが、その後、生産が増え過ぎて価格が低くなり、今でも低価格が続いています。みかん畑は、傾斜地が多いので、収穫作業が機械化されていないことも理由の一つです。

ぼくは、みかん農家がこんなにきびしい状況の中で、手間をかけて甘くておいしいみかん作りを続けていることに驚きました。毎日元気にいられるのも農家の人たちのおかげなので、これからもたくさん食べて、みんなが幸せになれるといいなあと思っています。